

「いいだ未来デザイン 2028」平成 29 年度戦略計画に対する意見と市の考え方

いいだ未来デザイン会議委員からのご意見	市の考え方
<p><基本目標1 若者が帰ってこられる産業をつくる></p> <p>【石神委員】 学卒者の地域内回帰・定着率という指標は、飯田の高校を出て大学へ進学し、また飯田で就職をする割合ということでよいか。</p> <p>【石神委員】 今の時代は必ずしも大学を卒業して帰ってくるというだけでなく、大学院へ進学したり企業へ就職して技術を習得したりした後に帰ってくるというケースもあると思う。そのようなケースに対応する指標を設定する必要があるのでは。</p> <p>【石神委員】 仕事の内容と就職する方のマッチングの問題がある。例えば航空宇宙産業をみんながやりたいということではないと思う。指標を幅広く作らないと、現状を正確に把握できないのでは。</p> <p>【寺沢委員】 マーケティングの強化やブランド戦略により、外に向けてPRすることで、農業に魅力を持ってもらい担い手を増やす戦略になっている。まずは、外から人を呼び込むために地域の中で農業と他の産業と連携しながら新たな産業を生み出していこうと考えているが、そのような視点についてはどのように考えているか。</p> <p>【寺沢委員】 海外や大都市に向かってブランド戦略を進めているが、それと並行して観光も含めて飯田市に人を呼び込むことも考えていくことが大事。人が来ないことには地域が元気にならないと思う。</p>	<p>【遠山部長】 毎年、飯田の高校を卒業後に地元で就職する生徒が2割程度となっており、残りの生徒はいったん地元を離れてしまう。その中でまた2割程度の生徒が大学等を卒業後に地元に戻ってくる。その2つを合わせた数字が、学卒者の地域内回帰・定着率という指標になっている。</p> <p>【遠山部長】 様々なケースを考えるべきだと考える。UターンだけでなくIターンの人材確保にも力を入れる必要があると考えている。</p> <p>【遠山部長】 業種ごとの指標を網羅できている状況ではないため、業種も細かく突き詰めていき、現状をより正確に把握できるように検討していきたい。</p> <p>【遠山部長】 まずは、地域の産業が元気になることが一番だと考えている。そのために、例えば市田柿は通年で販売ルートが確立されているわけではなく、ある時期には落ち込んでしまう。海外市場の展開を図ることで、通年で地域の元気を保つことができるようになる。もう一つは外へPRすることで認識の向上につながり、飯田を訪れる方が増えるという狙いをもっている。</p> <p>【遠山部長】 やはり中を充実させることが大事だとわたしも考えている。外への展開と並行して進めていきたい。</p>

【内山委員】（報告用紙）

- ・ 1-②(5)
ジビエを謳うなら、もう一度飯田にと畜場を（2015年3月閉鎖）
- ・ 1-③(4)
企業セミナーは休日開催だけでなく、平日も数回開催を

【木田委員】（報告用紙）

- ・ 1
店舗を持たない人が活動できる場所がほしい。まちゼミなども店舗のある人しか参加できない。

<基本目標2 飯田市への人の流れをつくる>

【木田委員】

自分自身がIターンで飯田市に住んでいるが、いきなり移住することは難しいと思う。移住のイベントが単発的に行われても移住しようという気持ちにならない。ある程度頻繁にイベントがあり、何度も飯田に足を運んでもらうことで定住につながるのではないかと思う。また、例えば一週間程度、試しに仕事や暮らしを体験することができれば、まちの雰囲気が変わり移住につながるのではないかと思う。

【永井委員】

飯田から松本の中高一貫校に通う生徒もいる。リニアができれば、そういった選択肢がたくさんあり、外への人の流れを注視する必要があると思う。一方で、飯田下伊那以外の人で、飯田のスイミングに通いたいということで、飯田に住んでいる人もいる。地域に魅力があるということが大事だと思う。

【石神委員】

指標は政策を象徴していると思う。この目標については休日滞在人口率を指標としているが、近隣の町村の方が相当数含まれているのではないかと思う。域内と域外を分けて、指標を出す必要があるのではないかと思う。

【梶川委員】

地域ブランドの重要性を認識している。南信州で考えるようであれば周辺町村も含まれると思うが、どのように考えているか。

【遠山部長】

飯田市ではおためし住宅のようなものができればと考えている。住みながら地域の人と関わり、仕事と住まいが両立できることが大事だと考えている。

【遠山部長】

外に出ていく流れと中に入ってくる流れがあり、地域ブランドの構築を一層図っていききたいと考えている。飯田に呼び込むために飯田市の魅力や受け皿を整えていきたい。

【遠山部長】

たしかに実感として、まちが賑わっているという感覚を持つ方は少ないと思う。域内でも域外でも地域が賑わっている状況を作るよう考えていきたい。

【遠山部長】

産業という部分では一市町村で完結するものではないので、飯田市のみということではなく、南信州全体で考えていくべきだと思う。

【内山委員】（報告用紙）

- ・ 2-①(3)
自転車というツールも加えてみては
- ・ 2-③(2)
フィルムコミッションを作る
- ・ 2-⑤(1)
飲食系イベントは形を変えても「続ける」

【木田委員】（報告用紙）

飯田ならではのライフスタイルの個々のカラーが具体的にアピールされると参考になる。

【本田委員】（報告用紙）

リニア開通までに「飯田に来る必然」を創出することが課題。

<基本目標3 地育力が支える学びあいで、生きる力を持ち、心豊かな人材を育む>

【寺沢委員】

食育は体験活動の中に含まれているのか。ぜひ食育の視点を大事にしていきたい。

【内山委員】（報告用紙）

- ・ 3-③(1)
上郷の本が非常に良かった。他の地域でも

<基本目標4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす>

【永井委員】

美術博物館の来館者数について、市内、市外、県外の内訳が重要だと思う。市民にとって素晴らしい展示も大事だが、展示によって県外から人を呼べるものも考えた方がよい。

【木田委員】

この地域にはいろいろな文化があるが、どこでなにをやっているか一元管理した情報がないのが不便だと感じている。知人友人から情報を得ることが多いが、

【三浦次長】

大事な部分だと思うので、考えていきたい。

【松下参事】

まずは市民の皆様に、この地域の自然や文化の価値を認識していただきたいと考えている。一方で、外からの来館者を増やすことも重要であると考えているため、検討課題であると認識している。

【松下参事】

情報発信には力を入れているところだが、自然、歴史、文化的な資源に加えて観光情報も含めて発信するよう検討していきたい。基本目標2とも関連して

外から飯田に来ている人はなかなか情報が入らない。

人形劇のまちであるにも関わらず、飯田にプロの人形劇団がないのは不思議に感じる。まち全体で人形劇をもっとPRするなど、まちが支援する仕組みがあるとよいと思う。人形劇場は本当に素晴らしい施設だと思うので、活用方法をもっと考えるべきだと思う。

【木田委員】

人形劇は飯田の一番のブランドだと思う。まち全体で支援することが大事だと思う。

【梶川委員】

文化に対する取組は非常に素晴らしいと感じる一方で、歴史に対する取組については、遺跡や古墳というものは子どもたちには実感がわからないのではと思う。近現代の産業を伝えていくことが子どもたちにも重要なことだと思う。

【内山委員】（報告用紙）

焼肉文化についての論文を是非

【木田委員】（報告用紙）

これだけ多くの場所で祭り、花火などをやっている地域はないのに、それをまとめて見られるメディアがないこと。一元管理とは言わなくても一覧があったら、旅行や帰省のきっかけになるのでは。

地元の人しか知らない情報が多いのがもったいない。伝えていけない。

【藤本委員長】（会議後報告用紙）

橋北地区の者ですが、春草の生誕の地であるので、関心があります。美術博物館も開館して30年も経つことに本当に驚きました。

市民の方々に広く知ってもらい、深く親しんでもらうようにすると良いと考えます。イベント等計画し、美博の再発見につながると良いと考えます。

<基本目標5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる>

【三浦（七）委員】

医療費等について、現状では病院1箇所につき月1回500円かかる。薬局もまた同じように500円かかる。また、窓口で一旦は支払いをして、後日医療費が振り込まれるというシステムである。以前居住していた名古屋市では医療機関等す

考えていきたい。

人形劇のまちづくりについては、通年で人形劇が上演されることが大事だと考えている。今すぐにといいわけにはいかないが、検討課題としてしっかりと検討していきたい。

【松下参事】

近現代の歴史を振り返りながら、これからの時代に生かしていくことを考えたり、古墳について教材づくりを進めたり、歴史についても様々な取組がなされている。そのあたりを市民の皆様にもっとPRするよう努めていきたい。

【寺澤部長】

市議会へもそういった点を大事にしたいと本日の議会でも申し上げてきたところである。長野県としても18歳までは、窓口での支払いが必要ないような方向性で進めていきたいと考えている。医療基盤が都会とは異なっているので、

べてその場では無料であった。生活困窮者等で子育てしている家庭においては、窓口での支払いは大変と感じる。現状の支払いシステムについて見直しを検討したかどうか。

【下平委員】

以前からこの課題はある。直接かかわっている皆さんの声もあるので、是非進めていっていただきたい。

【松村副委員長】

5-②(1)子供がいる生活困窮世帯（ひとり親家庭等）に対し支援体制を構築するとあるが、どういったものを想定しているか。また、祖父母等と同居しているひとり親家庭の生活困窮者の捉えはどう考えているか。

ファミリーサポートの利用料を軽減するとあるが、何年も言っているが動いていない。ひとり親家庭の方がファミリーサポートをどのくらい利用しているのかそれによってこの軽減の部分を見直さないといけないと感じる。

5-④(2)将来子どもを持つこととなる市民に、妊娠と出産に対する知識を啓発するとあるが、避妊も含めて考えて取り組んでいただきたい。子どもが2歳までの離婚率が高いことを特集番組でも取り扱っていた。子どもを持つことこの責任なども含めて取り組んでいけると良いと感じる。

【松村副委員長】

連携する団体として、高等学校とあるが、助産師さんなどの外の力を借りてできることもあるので期待する役割として増やしていただくことも大事だと感じる。

【三浦（七）委員】

子どもを育てるのに塾など学校以外でお金がかかってしまい、もっと産みたいのに経済的理由によりむやみに産めない。移住者の場合は近くに祖父母がいないので預ける場所がないと仕事もせず地域活動にも参加できない。以前居住していた名古屋市では、そういった会議があると託児がセットになっている。子どもがいる方でも、参加できる環境整備が大事だと感じる。

学童保育というのがあるが、現在居住している上村にはない。上村でも移住者を呼べないかという話もあるが、実際には上村には雇用がない。働くためには街の方面に出て行くことになるが、小学校の子どもの面倒を見る人がいない。共働

1 レセプト 500 円と薬局 500 円で 1 医療機関にかかる と 1,000 円というのは課題と認識している。長野県の情報にも注意をしていただきたい。

【寺澤部長】

子供がいる生活困窮世帯（ひとり親家庭等）に対し支援体制を構築とあるが、まず入り口としてこれが大事であるということ、ここでは連携する各団体の皆さんに着目をさせていただいた。市だけで構築していくということではない。

ファミリーサポートについては、必要な方の実数の伸びが過大である旨は捉えている。しかし利用者数は伸びていない、その理由のひとつに金額のこともある。

OIDE 長姫高校の先生方とも踏み込んだ話し、どこまで啓発するのかについても教育現場も含め研究をしている状況がある。

きができないと、移住してきてもなかなか難しい状況がるのが現実である。また、住む場所がないのに移住者を呼んでくださいといわれるがそれは難しい。住むところの確保も重要だと感じる。

【佐々木委員】

関連して、今日のために何人か母親の方から聞き取りをしてきたが、同じような意見をお持ちであった。学童に関しては、中山間地と市街地では格差もあると思うがそもそも学童があるところとないところがあり、地域間格差があると感じる。学童があっても預かってくれる対象がそれぞれであったり、長期休暇中の預かりがないなど課題も多いと思う。移住者や核家族など母親の社会進出という面も含め市で体系的に全体バランスをとってできないかという意見も聞かれた。

延長保育について、中山間地域等だと職場が離れている関係でどうしても必要となる。女性の社会進出の推進や経済対策の面でも重要なことだと感じている。

塾等へ行けない子どももいる中で、児童クラブも含め飯田の地域力を使って、子どもたちの学力の底上げができないかという意見もあった。このいいだ未来デザインでは地域が人を育てるという考えもある中で、もう少し具体的な取組みとしていただきたいという意見が多数あった。

【松村副委員長】

この会議の進め方として、この計画にのっとり意見を言ったら良いか、伝えたいことを言ったらよいのか。この計画の中で気づいたところやここをもっと進めていくべきだとか、そういったところを深めていかないと、要望だけがここに出てきてしまうが進め方としてはどうか。

<基本目標6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす>

【松村副委員長】

6-④(1)プラステン(+10)を実践している人の割合を増やすとあるが、どうしてもここに興味を持つのが50代以降の方が多く、そういったところには届きやすいと思うが、本当はもっと若いところにこのプラステンを普及させて高齢者になっても元気な身体で過ごせるというところを目指すということで、各地区の健康教室でのプラステンの実践方法としてももう少し違うスタイルで幅広くあっていいのではと思う。その方法を検討してみてもどうか。

【下平委員】

【企画課串原】

今日のところは、感じたことなど出していただくだけ出していただきたいと考えている。策定に携わった委員と今回初めて委員になられた方がいる中で、とりあえず意見を出していただき、この計画に関係するものやもっと大きな話等整理をする必要がある。

ここは啓発以外にないと思う。健康とは自分のことなので、しっかり啓発していくこと。簡単なようで難しい課題だと思う。やる気が起こるような啓発が必要ではないか。

【鈴木委員】

6-①(1)国保世帯の62歳健康づくり家庭訪問について訪問率を78%以上にするについて、これは誰が訪問しているのか。

【下平委員】

定期健診も個人によってかなり違うので、これに合わせてやるのは課題があると感じる。

<基本目標7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる>

【松村副委員長】

7-①(1)住民支え合いマップを活用したとあるが、実際に活用事例があるのか。

連携する団体として、まちづくり委員会がいたるところで記載されているが、人口減少、高齢化の中で、まちづくり委員会に負担ばかりがかからないか心配である。

【下平委員】

防災訓練では活用されていると思う。

【松村副委員長】

住民支え合いマップの活用で、どう指標や活動に活かしていくのか課題ではないか。

【三浦（七）委員】

現在デイサービスで勤務しているが、そこの所長も言っていたが障害児、学童や高齢者が一緒に生活できるケアセンターを目指している。こういった施設は飯田市には存在しないが、こういった施設が飯田市にあって増やしていけばすばらしいと感じる。こういったところが助け合いの場にもなると考える。

【企画課串原】

市の保健師が訪問している。

【寺澤部長】

62歳の理由は、会社をリタイアした方も含めここを集中的に行っている。次のステップとしては、課題でもあるがもう少し若い世代を対象に意識付けしていければと考える。

【寺澤部長】

住民支え合いマップを活用している地区とそうでない地区はある。今年、このマップを使ってゴミ出しをしようとする仕組みを作った地区が1地区ある。

【大沢委員】

国でも動いている、地域共生社会の中で言われていることなので、国の政策として具体化されてくると思う。小地域の中で作っていきましょうとなった時にその地区での働きかけであるとか、行政や地区の方も一緒にやっていくなど、そういった動きがそろそろ始まってくると思われる。富山県氷見市が先進的な取組をおこなっている。全国的な動向も含め今後期待していきたい取組ではある。

<基本目標 8 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる>

【大西委員】

課題解決に対する個人や地域の思いをつなぎ具体的に事業化するための仕組みづくりと、事業を継続していくための支援の方策を検討します。とあるが、事業化するための仕組みづくり、具体的なイメージはあるか。

【大西委員】

事例が市内にあるので、共有して横展開を図りやすいと感じる。

【藤本委員長】

20 地区応援隊のふるさと納税について、地区としてはどのように展開していくとよいのか。

【北澤委員】

上村地区では中学校の同級会があり、センター長からそういった場で周知できないか依頼があり県外の方へ配布をした。寄附する方が手間のかからないように寄附できることが望ましい。上村では目標額は設定していないが、まずは親族等

【竹前部長】

例として、千代地区のしゃくなげの会、保育園の運営、デイの運営、保育園の存続など中山間地域の高齢化に対応した組織を作ってきた。上村では、省水力発電を行い保育園の維持等に売電収入を充て、まちづくり委員会等が出資する上村省水力株式会社を創り、事業実現に向けて取り組んでいる。こういった組織をいくつも創りだして行きたい。そこには課題もあり例えば足の問題（乗り合いタクシー）など、各地区それぞれの課題に焦点を充て、そのための実働部隊（事業体）を組織したい。そのための仕組みづくりを研究していく。

【竹前部長】

横展開を図って行きたい。その他千代のよこね田んぼではお米をブランド化したいと取り組んでいる。遠山地区では若者プロジェクトにより若者の発想で新たな事業体が立ち上がる可能性もある。ある地区では空家を活用するためのなんらかの組織 NPO かもしれないが考えている。いろんな可能性に向けてチャレンジすることをしっかり市として支援していきたい。

【竹前部長】

6月からスタートしている。今後クレジットカードに対応するよう準備を進めている。ふるさと会や同窓会などのネットワークを活用しながら広めていく。ウェブサイトでも周知を図る。地区によっては、目標額を定めてやろうという声も聞かれる。具体的にはこれからの取組となる。

【佐藤副市長】

20 地区ふるさと納税のねらいは、各地区での取組。例えば橋北では「橋北まると博物館」でこういった事をやりたい、そのためにお金も必要だから寄附をお願いしたい、というように全国に発信できれば応援してくれる人もいると

を通して周知を図ることとしている。

【藤本委員長】

この制度は、地区の活力によって寄附額も変わってくるということか。

【北澤委員】

上村では、上村地区の中でもさらに細分化した霜月祭りの開催単位の地区へ配分できないかという意見もある。

【小林委員】（会議後報告用紙）

・ 8 - ①(2)

平成 29 年度市政懇談会資料として「市政経営の方向」が配布され、各地区ごとに「人口減少を食い止めるための目標値（藤山浩氏による）」が示されている。まずは、各まちづくり委員会に諮って地区内居住者から縁故、縁者にターンの呼びかけを始めたらどうか。

戦略の構築を進めると同時に、身内に期待したキャンペーンもいいかもしれない。

近年、若年層を対象とした地区別懇談会に最年長として参加させてもらったが、多くは安全で安定した気持ちに余裕のある暮らしを基礎として望むのであって、イベント的な喜びは欲していない。ふるさと納税を軸とした戦略には、ホストとゲストというビジネスライクな印象があり、ともすると好印象を与えることに特化してしまうのだろうか。貢献の意味を込めた納税の結果が、地域の個性の助長と、それに反して問題点の是正につながったことのアピール、そのアピールをすることのできるだろう内容を課題とし目標とすることが大事と思う。「投じたものが我が身を引き入れる目的に使われていた」とはおもわれたくない。

<基本目標 9 個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する>

【藤本委員長】

地域の集会所の改修工事 200 万以上でないと市から補助がでない。そこら辺も研究していただければ、助かる地域もある。

【森下委員】

考える。内容がより具体的な方が寄附しやすいと考える。

【佐藤副市長】

地区間でも頑張ることによって、いい意味での競争が生まれると考える。

【竹前部長】

この 20 地区ふるさと納税は、一括して上村地区ということになる。

【竹前部長】

トイレの改修、手すりやスロープなど 200 万以上なくても対応できるような制度を研究していきたいと考えている。

【竹前部長】

分館では、高齢者の方が集う際に階段が大変だとよく聞かれる。

【竹村委員】

ワークライフバランスについて、企業で積極的に取り入れていこうと動いている。従業員 100 人以上の事業所で 30%の事業所が女性活躍推進一般事業主行動計画を立てるとあるが、女性を活躍させるという意図はいいが、なかなか女性のニーズに合っていないことがある。例えば、女性の管理職を3割にしましょうとか言っても、家庭の事情等によりなかなか手がない。現状と合っていないところが難しいと感じる。

家庭の仕事は男性はやっていると言っているが、土日の話で平日はゴミ出し程度など、男女の意識が乖離していることも課題である。

<基本目標 10 豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる>

【森下委員】

公民館活動として地域、学校との連携生徒さんと住民とのつながりのお手伝いをしている。リニア時代、自然と共生する環境の変わり行く飯田、大人も子供も誰もが地域に関わり、支え合って良いまちづくりをしていきたい。

環境アドバイザーとして、8月に早速保育園に行ってきました。(6～7箇所)子どもたちも分別方法など結構理解できている。家庭で両親に教えてもらっている子もいた。

【森下委員】(報告用紙)

- ・公民館活動として地域、学校との連携、生徒さんと住民とのつながりをしています。
- ・リニア時代、自然と共生する環境の変わりゆく飯田、大人も子供も誰もが地域に関わり、支え合って良いまちづくりにする。

<基本目標 11 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める>

【松村副委員長】

11-①(1)ハザードマップ更新に合わせわが家の避難計画の作成について、まずはハザードマップの周知をしっかりとやる。そこからわが家の避難計画に繋がっていくと思う。マップ上の避難場所は市民の方が見て分かりやすいのが一番であ

そういったところも課題であると認識している。

【竹前部長】

200 を超える事業所に対してアンケート調査を実施している。男性と女性とそれぞれのワークライフバランスがあると思っている。事業所のセミナーはやってきているが、移住定住も見据えて進めていきたい。意識改革の部分もあるのでそう簡単ではないと感じている。

【小平部長】

今年4地区更新する予定で順次作成されており県が順次作成している。一度に全部はできない状況である。

る。

【三浦（七）】

ハザードマップを基に安全な場所を地区のみんなと話し合うが、安全な場所がない。指定の非難所はあるが、いくつか橋を越えてそこにたどりつけるか心配。きちんと、ここは安全であるという場所を確保してほしい。また、最近ではミサイル発射のメールが届いたが、保育園も小学校も一般の方もどうしたらいいのか分からないので、そこも含めて考えていただきたい。

【鈴木委員】

ミサイルまでいくと、地下シェルターなど個人レベルでの対応。いかにして自分の身を守るかということは個人レベルでも考えなくてはと感じる。

先ほどの上村の話のように、安全な避難場所の整備は優先的に公民館の改修などしていくべきと考える。

【三浦（弥）委員】

11-④(3)緊急避難場所となる都市公園とあるが、普通の公園とは異なるのか。

【三浦（弥）委員】

11-①(2)要支援者宅の家具転倒防止推進の実態調査を要支援者宅を訪問し行うとあるが、調査をしての要支援者ということか。

【三浦（弥）委員】

こういった事は、まちづくり委員会の方や民生委員の方など信頼できる方が入っていただかないと他の不安な事柄となってしまう。

【下平委員】

日赤の方も飛散防止フィルムを貼る取組をしていたが、個人情報の壁がどこへいっても厳しいと感じる。

【小平部長】

避難場所については、小学校や公民館の耐震改修など第5次計画でも取り組んでいたが、集会所単位まではできていない現状である。また、公民館から遠い人はどうするかなど課題も多い。

土砂災害について、特に遠山谷は危険箇所が多い地区であるが、出来る範囲の対策は国も県も一緒になって取り組んでいただいている。しかし、すべてを安全にしていくことは困難なことであるので、安全なところに誘導していくということも一つの考えではある。

指標にある橋梁の修繕工事について、飯田市内は 940 の橋があり重要なところから順次改修を進めていくこととしている

【小平部長】

市の防災計画に位置付けている公園がいくつかある。例えば河川の近くの公園が避難場所であれば、フェンスが傷んでいけば落下等危険なのでそういったところの改修を行っている。また、水道に関しては、妙琴浄水場の耐震化を始めている。

【寺澤部長】

そのとおりである。先ほど話題になった、地域の支え合いマップがここでは重要となってきている。

【小平部長】

支え合いマップを基に助けにいったら、家具の下敷きになっていたのでは悲しいので、まずは、家具転倒防止推進の実態調査から始めることとしている。

【小平部長】

以前、転倒防止の器具を配布したが、自分では取り付けられないけど家に入ってほしくないという話もありなかなか難しい。

<基本目標 12 リニア時代を支える都市基盤を整備する>

【小林委員】

リニアに関しては様々な取組がある中で優先して行う内容がここにあると認識しています。特に大変なのが土地収用や代替地で地区での説明会が開催されていると思うが、地元の方も不安を感じていると思うが、そういったことが優先的に行われているという理解でよろしいか。

【森下委員】

上郷地域で地域を知る会が公民館で行われる。北条に話を聞きに行く予定。

【藤本委員長】

残土の処理に関してはどのようになっているか。

【藤本委員長】

時期はいつ頃か。

<全体を通して>

【石神委員】

未来デザインは市役所がやるデザインではなく、「みんなが主役」とあるとおり、市民全体がやるものだとして認識している。指標の設定の中で、どうしても達成できそうな目標を設定しているように感じる。難しい目標を設定して、仮にそれが達成できなくても仕方がないという感覚で目標を設定してはどうか。行政がとりやすい指標だけでなく、市民に指標を作ってもらうことも必要だと思う。行政の目標でなく市民の目標ということも考えたらどうかと思う。

【北沢部長】

スケジュール的には一気に進むという状況ではない。目標とする年次がある中で順序について地域の皆さんにご理解いただきながら進めていきたい。事業が歓迎されるような方向になるようにエネルギーを注いでいきたいと考える。

【北沢部長】

竜東下久堅龍江が残土置き場として設定されている。地域住民に影響の少ない運搬道路（国・県道等）を検討している中の一つに高速道路（三遠南信も含む）の利用もあるという強い要望として出している。

【北沢部長】

今は妙琴の工事ヤードの準備工事の説明に地域へ入っている。間もなく残土の搬出路についても調整が及んでくると思われる。

【企画課串原】

今年1年実施し来年7月に皆さんの評価をいただくこととしている。計画に対する意見やもっと大きな意味での意見などあるので、報告用紙に書いていただき全体としてどうしていくのか事務局としても考えていきたいと思う。不安は共有するが市として対応できるのかまた、今までの視点が欠けているのでは

<今後の未来デザイン会議の持ち方等について>

【藤本委員長】

- ・定期的な開催が良いと考えます。

【小林委員】

- ・情報の公開は予告してくれるので目を通すが、意見交換の場は疑問を解決してくれる機会と思いますので、定期的な開催を望みます。

【木田委員】

- ・一般人として参加させていただくにあたり、資料をいただきましたが、あまりの量の多さに驚きました。読むのに何日もかかり、内容も分かりやすいものでなかったのも、とても大変でした。あの膨大な資料とは別に資料の概要がほしいです。

全体の内容を把握するだけでも大変でした。資料の量に対して話す時間もほとんどなく、何のために出席しているのか少し疑問に思いました。

会議当時では、資料の内容からというよりは、飯田に来てから考えていたことを話させていただきましたが、私自身が人形劇をプロでやっていた経験やファンとしての想いを話したに過ぎず、何のための資料の読み込みだったのか。どういう意見を求められているのか、話すべきなのかいまいちわからず、移住者代表として自分が役に立っているのか不安になりました。

ないかということもあるだろうし、地域の方やいろんな方などの協力をいただいて出来ることもあるだろうし、段階的に整理していきたいと思う。

いつでもいいので、委員の立場で意見を言っていただければ個別に対応させていただきます。